

平成 30 年 6 月 12 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370848

研究課題名(和文)18世紀前半のナント海運業

研究課題名(英文)Shipping Trade of Nantes in the first half of 18th century

研究代表者

大峰 真理 (OMINE, MARI)

千葉大学・大学院人文科学研究院・教授

研究者番号：70323384

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、18世紀前半のフランス海港都市ナントによる海運業の内実を明らかにすることであった。

研究期間中、代表者はまず3,898隻の船舶のうちナント海運業を牽引したと考えられる二つの貿易分野 - アンティル諸島直行貿易とヨーロッパ沿岸貿易 - について数量化作業を行った。続いて、これらに従事した代表的な海運業者について一次史料調査を行い、複数都市間に形成された実業家集団 - 艀装業者、船舶所有者、船長、商品取扱業者 - のネットワークと紐帯の中核を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to clarify the fact of the shipping trade by French seaport-town Nantes in the first half of 18th century.

I quantified it about two fields of trade, Antilles Islands trade and European coastal trade, among 3,898 ships. I performed a historical sources materials investigation about the shipping agents. I clarified the core of businessman network ; ship suppliers, shipowners, captains and product handling supplier.

研究分野：近世フランス国際商業史

キーワード：近世フランス 海港都市ナント 海運業者 ヨーロッパ沿岸貿易 アンティル諸島直行貿易

1. 研究開始当初の背景

(1) 申請者はこれまで、18世紀フランス奴隷貿易を考察し、博士論文(1999年)では特権商事会社の経営体制・民間商人による船舶艦装活動・西アフリカ内陸商業網の相互連関を分析・考察した。

(2) その過程で、とくに奴隷貿易に関与した海港都市の商人に関心をもったので、2000年以降はフランス奴隷貿易第一位港であるナント実業界に着目し、研究を進めてきた。

(3) 海外特別研究員として採用された期間中(2001~2003年)は、現地文書館での一次史料調査に着手し、ナント実業界に占める外国商人の役割の重要性を認識した。とりわけ、アイルランド出身者による重層的な親族関係の構築と多角的な商業活動の実態を史料から読み解くことに成功した。

(4) 以上の知見をえた申請者は、アイルランド出身カトリック信徒の国際商業ネットワークを再構成できれば、近世フランス国際商業の新たな発展要因を提示できるのではないかと着想し、科研費補助金〈萌芽研究〉を申請した。

(5) 〈萌芽研究〉交付期間中(2006~2008年)は、ロワール=アトランティック県文書館で一次史料の調査と整理を進めた。網羅的な調査の結果、1694年から1744年までに申告・登録された「船舶艦装申告書」の収集とデータ化に一定の見通しがたち、史料一覧の原型を構築した。

(6) この成果をふまえ、〈基盤研究C〉を申請し、2009~2013年まで交付を受けた。この期間中、2011年3月には『船舶艦装申告書一覧』を出版し、2013年5月には学術論を発表して、18世紀前半ナント海運業の実態を数量化することを達成した。

『史料一覧』の作成は、これまでフランス国内でも行われることがなかった網羅的な史料調査と整理・分析の成果である。

記録情報の数量分析に着手できた結果、ヨーロッパ沿岸貿易、アンティル諸島貿易、奴隷貿易など多様な海運事業に参入するカトリック信徒の活動と事業網を抽出することができた。

これまでの社会経済史研究では、もっぱらプロテスタンティズムと商業資本主義との関係についてくり返し議論されてきたが、本研究をとおしてカトリシズムと商業資本主義との連関という宗教的信仰と経済活動とのあらたな関連性を提示できた。

とりわけヨーロッパ沿岸貿易、アンティル諸島貿易、奴隷貿易など多様な海運事業に参入するカトリック信徒の活動を事業網を抽出できた。

なかでも18世紀前半の港湾都市ナントは、アンティル諸島直行貿易とヨーロッパ沿岸貿易によって支えられ(全体の78%)、これらの実業分野をささえる海運業者たちの活動が、王国政府による植民政策、砂糖生産政策、海外貿易政策などと連動しながら進展し

た点を明示できた。

(7) 本基盤研究Cへの申請は、上記(8)までの経緯と成果をふまえ、さらにそれを継続・発展させる目的のためであった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、これまでもっぱら奴隷貿易によって牽引され発展したと理解されてきた18世紀ナント海運業の多角的な実態を明らかにすることである。

ナント海運業の複合性は、すでにジャン・メイェールによって指摘され、特定の海運業者による多角的な事業形態が明らかにされている。しかし彼の問題関心は18世紀後半にのみ限定されたので、「フランス国際商業の飛躍期」とされる18世紀全般について、この港町がどのように経済活動を進展させてきたのか、その全体像を知ることができないままでいた。

申請者による近年の史料調査と研究成果は、メイェールが強調した港湾都市ナントに特有な海運業者の傾向を100年単位の連続性の中に位置づけ直すことを可能にするはずである。

3. 研究の方法

研究のおもな方法は、(1)一次史料の収集と整理、(2)記録情報の数量化、(3)考察と論文執筆である。

その目的は、ヨーロッパ沿岸貿易およびアンティル諸島直行貿易の内実を可視化するためである。史料調査先機関および分析対象史料群は、以下の通りである。

ロワール=アトランティック県文書館

a. 公証人文書

- 「会社設立文書」
- 「海上保険契約書」
- 「年季奉公人契約書」

b. 海事裁判所文書

- 「船舶艦装申告書」
- 「航海日誌」

c. プルターニユ会計院文書

- 「租税関係文書」

d. 教区簿冊

ナント市文書館

a. 租税台帳

フランス国立古文書館

a. サン=ドマング島関連文書

- 「海外領民籍簿」

b. 外国人帰化証明書

c. 公証人文書

4. 研究成果

(1) 平成26年度：本研究開始直前に出版した『船舶艦装申告書一覧 18世紀フランス・ナントによるヨーロッパ沿岸貿易の痕跡』にもとづいて、データ処理に着手した。その結果、フランドル地方、アイルランド島、イベリア半島とのあいだに結ばれる商業関

係の大きさを数量化できた。

(2) 平成 27 年度：リスボン貿易についての個別研究を行った。とりわけナントに定着したポルトガル出身家系についての史料調査を行った。20 世紀初頭に公表された研究成果の後、フランス本国内で継続的に行われることがなかったポルトガル出身家系について、元来の生業とナント定着後に拡大していく彼らの活動内容を実証的に把握することに着手できた。この成果を共著として出版する計画を実施にうつした。

(3) 平成 28 年度：アンティル諸島直行貿易にかかわった海運業者およびプランテーション農園経営者(または代理人)について、一次史料調査を行った。その結果、ナントとサン＝ドマング島とを結ぶ商人・代理人関係のいくつかについて実証的な成果を得ることができた。年度末には、その内容を国内の研究会で発表した。

(4) 平成 29 年度：本研究の成果を総括するために、共著『商業と異文化の接触』を出版し、奴隷貿易に特化しないナント海運業の発展諸要因を明示した。とりわけリスボン貿易に従事するポルトガル出身家系について、一次史料を根拠とする実証研究の成果を公表できた。

(5) この共著におさめた論文については、2017 年 11 月に開催された国際商業史研究会(於：東京大学)で書評の対象となった。ここでは、丹念な史料調査を手がかりとした仮説の提示とその独創性が評価された一方で、考察を深化させるためにはさらなる一次史料調査 - たえば「会社設立文書」や「海上保険契約書」 - の調査が不可欠であることが指摘され、今後の研究の道筋が示唆された。

以上のように、本研究の二つの課題「伝統的な」ヨーロッパ沿岸貿易「新事業としての」アンティル諸島貿易のうち、とりわけに関する実証的研究成果の公表と批判的検証が達成できた。

本研究では、1969 年以降行われることがなかった網羅的な史料調査と整理をすすめ、記録情報を数量化することをつうじて、ナント海運業が包括する多様な事業分野を一つ一つ個別に検証することができた。

また研究期間の全体をとおして公表した成果を批判的に検証する機械をもつことができたので、今後の史資料調査と研究全体の方向性にむけて具体的な計画をたて実行する足場を確認することができた。

したがって、今後は、さらに史料調査を継続し、ナント海運業の実態分析を深化させる必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

OMINE Mari, “Les axes recents de la recherche sur l’Ancien Regime par les historiens modernists japonais” dans La Revolution francaise Cahiers de l’Institut d’Histoire de la Revolution Francaise, 2016, Paris, p.1-11, 査読有、オープンアクセス。

〔学会発表〕(計 4 件)

大峰真理「近世フランス奴隷貿易とサン＝ドマング島におけるプランテーション経営」2017 年 3 月 29 日、帝国史研究会、上智大学四谷キャンパス。

大峰真理「18 世紀前半フランス・ナントによるリスボン貿易」2016 年 10 月 29 日、国際商業史研究会、東京大学駒場キャンパス。

OMINE Mari, Perdre “la Perle des Antilles”ou abolir l’esclavage : tel est le dilemme pour la Convention, 2015 年 7 月 25 日、国際シンポジウム「フランス革命の前と後 - 植民地・奴隷・黒人 - 」, 埼玉大学。

大峰真理「18 世紀前半フランス・ナントの奴隷船艦装業者の記録」2014 年 8 月 22 日、社会経済史学会近畿部会 2014 年度夏季シンポジウム、大阪市立大学文化交流センター。

〔図書〕(計 1 件)

(共著)『商業と異文化の接触：中世後期から近代におけるヨーロッパ国際商業の生成と展開』2017 年、吉田書店、総ページ 897 ページ、大峰真理「18 世紀前半フランス・ナントによるヨーロッパ沿岸貿易 リスボン貿易を中心に」455～476 ページ。

〔産業財産権〕

なし

○出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

大峰 真理(OMINE, Mari)

千葉大学・大学院人文科学研究院・教授

研究者番号：70323384